

# ウッドロングエコを塗布した ウッドデッキを さらに長もちさせる施工法！



ウッドデッキは、地面に対して平行につくるため常に紫外線や土埃、風雨に晒されます。ここでは「**修繕しながら、長もち**」を軸にp.23まで**3つの施工ポイント**をお伝えします。

## point 1

### 後々、施主様が自分で修繕できるづくり

木材の性質上、施工後、一部の木材に腐りや大きなワレがでることもあります。後々、施主様ご自身でDIY修繕ができる作り方をすると、修繕コストが抑えられます。

#### 1-1 床下工法は『大引BP工法』で、デッキ板の交換も簡単！

B(板金)とP(パッキン)により板と板が直に接しないため、デッキ板に腐りの兆候がでたとしても大引まで被害が及ばず**デッキ板のみの交換で修繕が簡単手軽**にできます。



とても簡単

ビスを抜き傷んだ床板を外す



新デッキ板に旧デッキ板を重ねて同じ所にビス穴を開ける



大引きの上にデッキ板を打つ



詳細は動画で



旧材をカットすれば燃えるゴミに出せます  
燃料として燃やしても有害物質はでません

#### 『大引BP工法』って？



大引用板金  
サイズ: 長さ1m×天端巾95mm×折曲げ10mm  
素材: カラーガルバリウム  
色: ブラウン



#### 1-2 パーゴラやフェンスの支柱は、直に立てる

後々、修繕することを想定し、最初から**デッキ板とは別にパーゴラやフェンスの支柱を立ち上げれば**、後々の修繕は楽です。仮にデッキ板の上に支柱を立てた場合は、デッキ板が先に傷めば、支柱も外さないとはいけません。



#### 1-3 デッキ材の適切なピッチが寿命を伸ばす

- ✓  束と束のピッチ
  - デッキ板 (杉赤身 厚み40mm) 最大で900mm
  - デッキ板 (杉赤身 厚み30mm) 最大で600mm
- ✓  以下のケースは、ピッチを短くすること
  - ・ cafe など大勢の人が利用する
  - ・ 雪の多い地域
  - ・ デッキ上に重量のあるテーブルをおく
- ✓  オーバーハングについて
  - 床板に負荷がかかり**床板を傷める原因になるのでお止めください。**



# ウッドロングエコを塗布した ウッドデッキを さらに長もちさせる施工法！

point  
2

## 水はけの良い施工

水はけの良い施工をすれば、木に湿気がたまりにくくなり腐朽菌の発生を抑えることができます。



### 2-1 水はけの良い幕板の張り方

**OK** 金具を挟む



金具を挟み板が重ならない工夫を

**OK** 平織金網で代用



金網により通風をとり野良猫等が入らないようにする

**NG** 幕板のベタ貼り



幕板を張り腐った事例(自社実験)



### 2-2 すき間をあける

**OK** 床板と床板



床板と床板のすき間は10mm程度あける

**NG**

**OK** 継ぎ手と継ぎ手



継ぎ手と継ぎ手の間は10mm程度あける

**NG**



継ぎ手のすき間を入れず腐った事例(自社実験)

### 2-3 コンクリートを打つ

**NG**



床下が土の場合 雑草が生え湿気がこもりデッキが腐りやすい

### 2-4 デッキ板裏と大引の間の水はけをよくする

B(板金)により大引き上部に雨水が触れず  
P(パッキン)により床板の裏の湿気が抜けやすい。

**OK** 大引BP工法



施工後8年 良好な状態(自社実験)

**NG** 一般の大引工法



施工後3年で腐った箇所(自社実験)



point  
3

## デッキ床板の厚みの重要性

自社で耐久試験を行った結果、デッキ床板の厚みにより耐久性が異なることがわかりました。(国産針葉樹でのテスト)



紀州杉(赤身材)の床板で厚み40mmと30mmで耐久性比較実験をした結果40mmの方が良好。

※杉の場合は床板の厚みが30mm以下だと、傷みやすいという結果がでました。(自社実験)

※デッキ板の厚みに応じて束と束のピッチを調整し耐久性を高めると長もちします。(自社実験)

### 2-5 庇をつけて雨がつかないようにする

庇を長くとることにより長もちしている事例。大引BP工法であればさらに長もちできます。

